令和６年度の財政状況は？

財政健全化判断比率・資金不足比率の状況

問合せ
市庁舎本館３階
財政課
TEL0897－52－1314

当市の昨年度の財政状況を、財政指標を基にお知らせします。財政状況は、いわばその年の「成績表」。地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく各比率には早期健全化基準などが設定され、基準値を上回ると健全化に向けた改善措置が義務付けられます。今年度はいずれも基準値を下回っていますが、今後も、健全で安定した財政運営に努めていきます。

財政の健全度

財政健全化判断比率

四つの指標の総称で、財政の健全度を表します。

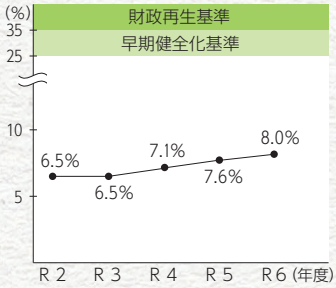
実質赤字比率・連結実質赤字比率
いずれも黒字決算であり、赤字は生じていません。

実質公債費比率
市債返済額の増加などにより数値は上昇傾向にあり、年々悪化しています。今後も市債償還返済額は増加していくことから、指標も同様に悪化する見込みです。

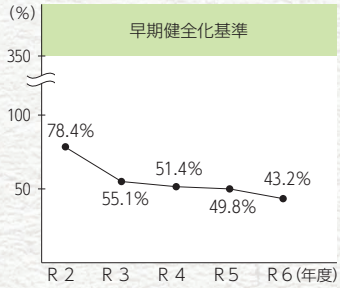
将来負担比率
市債残高の減少などにより数値は改善しています。しかし、小中学校施設の躯体健全化改修など今後も大型施設の整備・更新が予定されていることから、市債の借り入れを抑制するなど、将来の負担を軽減することが必要です。

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
当市比率（前年度）	－（－）	－（－）	**8.0%**（7.6%）	**43.2%**（49.8%）
早期健全化基準	**11.80%**	**16.80%**	**25.0%**	**350.0%**
財政再生基準	20.00%	30.00%	35.0%	－

●実質公債費比率の推移



●将来負担比率の推移



経営の健全度

公営企業における資金不足比率

公営企業ごとに資金の不足状況を算定します。資金が不足する場合は、事業の規模に対する不足額の割合が算出されます。当市では、全ての公営企業で資金不足は生じていないため、不足比率も算出されません。

会計名	当市比率	経営健全化基準
小松地域交流事業	－	20.0%
本谷温泉事業	－	
水道事業	－	
病院事業	－	
公共下水道事業	－	

財政指標について

実質赤字比率・連結実質赤字比率
＝収入＜支出（赤字）になっていないか
実質赤字比率　一般会計などの赤字の割合
連結実質赤字比率
一般会計＋公営企業会計などの赤字の割合

実質公債費比率＝１年の借金返済が苦しくないか
１年間の市債返済額／経常的に入る一般財源の規模

将来負担比率＝借金残高が収入に見合った規模か
（市債残高など－充当できる基金など）／経常的に入る一般財源の規模

資金不足比率＝経営に資金が不足していないか
資金不足額／事業の規模

健全財政を維持するために

当市は合併後、市民生活に必要な公共施設（ひうちクリーンセンター、道前クリーンセンター、西消防署、東部学校給食センターなど）の更新や整備に充てる財源として市債を活用してきました。しかし、それらの返済に係る負担に加え、今後も小中学校施設の躯体健全化改修などの実施に伴う市債の返済が重くのしかかってきます。将来世代への負担を軽減、平準化していくためには、公共施設マネジメントの推進による適正な規模への見直しを進めるとともに、実施事業を厳選し、事業費を精査することで市債借入額の抑制を図り、健全な財政運営に努めることが必要です。